

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

天地自然を崇拝して生活を営んできた日本人 後藤 俊彦 (高千穂神社宮司)

- 「年立ちてまつ汲みあぐる若水の すめる心^{こころ}を人は持たなむ」
この和歌は年の始めを尊ばれた大正天皇の御製である。昇る太陽も汲む水も常に変わらないが、私共はそれを新年には初日と呼び、若水と称える。年が改まれば天地自然もまた神聖な命^{いのち}が蘇ると信じているからである。
- 「冬来たりなば春遠からじ」というが、1月から3月にかけて時は瞬^{またた}く間に過ぎてゆく。日本人が季節の移ろいを感じとる感性が鋭いのは、変化に恵まれた四季の風土に生き、人と自然の間に一線を画することなく一つの生命体として捉えてきたからだろう。
- キリスト教にもイースター(復活祭)などの四句節^{しじゅうせつ}があり、自然を愛し尊ぶ心は世界の人々に共通しているが、それを五節句や年中行事として生活文化にまで昇華させてきたところにわが国の国風^{くにふう}のようなものを感じる。例えば、三月は桃の節句である。古来桃には邪気^{よろ}を祓うとの信仰があった。五月には梅雨の季節で田植え月である。一方で神社神道は、春は神に対して五穀豊穰を祈り、秋には実りへの感謝の祭りを行ってきた。そうして少しずつ人が群れ、ムラ(村)となり、クニ(国)となって統一国家が誕生した。

(参考:「致知」2023年4月号)

経営者のための経済学

貿易赤字国として定着する

佐々木融

(JPモルガン・チェース銀行市場調査本部長)

- 日本の2022年通年の貿易収支は20兆円の赤字と、金額としては過去最大の赤字額を記録した。対GDPでは3%台半ばとなる見通しで、これは1957年以来65年ぶりの水準となる。年間輸入総額は118兆円と初めて100兆円を超えた。前年比39%増は79年に記録した同45%に次ぐ数値だ。輸入の対名目GDP比は20%を超える見通し。データをさかのぼれる50年代後半以降でこれほどの水準に高まったことはない。
- これだけ大幅な赤字の増加を相手国別に見ると、中東諸国とオーストラリアに対する貿易赤字の増加が目立つ。今や貿易赤字の47%はオーストラリアだ。23年の日本は内需が強い一方、外需が弱くなるため、貿易赤字が昨年より増加する可能性があるかと予想する。日本はかつての貿易黒字国の面影はなくなり、貿易赤字国として定着することになりそうだ。

(参考:「週刊東洋経済」2023年2月18日号)

ワンポイント経営アドバイス

現場・現実・現物(松下幸之助の例)

楠木 建(一橋ビジネススクール教授)

- 禅語には人と人の世の本質が凝縮されている。例えば他是非吾(ほかはこれわれにあらず)。自分でやらなければ本当のことは分からない。大阪万博のときのことだ。「松下館」の前に松下幸之助その人が並んでいる。自分の番が来るまで並んだ幸之助はすぐに2つの指示を出した。①待ち時間を短くするための誘導方法の見直し、②暑い夏に向けて日よけを作っておく。
- ①はまだしも、②は自分で並んでみないとなかなか思いつかない。結局、夏には入場待ちの人々が暑さをしのげるようにと野点用の大日傘が立てられ、松下館のネームが入った紙の帽子を配ることにしたという。他是非吾は現場主義の本質を突いている。現場・現実・現物は一つひとつ異なる。だから自分でやらないと最善の解決策は出てこない。自分の脚で自分の道を歩いていくしかない。

(参考:「日経ビジネス」2023年2月13日号)

古典に学ぶ

人格は磨かれ、成長していく

- 「そういわれても、この腹立たしさはどうにもならないんだ」といいたくなるかもしれませんが。そういう時は、「この人は反面教師だ」と思いましょう。
- 相手の言動を見て、「自分はこんな行動はしない」「そういった言葉は人を傷つけるから使わない」と学ぶのです。そうすれば、あなたという人格が磨かれ、成長していきます。嫌な相手が、まさに自分を育ててくれる「親」となるわけです。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)